

韓国語の副詞的成分어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、 나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析

李 澤 熊

キーワード：認知言語学、ベース、プロフィール、韓国語の副詞的成分、類義語

1. はじめに

本稿では、類義関係にある韓国語の副詞的成分を考察対象とし、認知言語学の枠組みから、相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。考察対象とする語は、非意図的であることを表す어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の3語である。この3語の意味を分析した先行研究として、辞書・辞典類をのぞけば管見の限りでは見あたらない。なお、辞書・辞典類における3語の意味記述は、堂々巡りの説明となっており、それぞれの意味は不明確なままになっている。

ここで、本稿の構成について簡単に述べておく。

まず、2. では本稿で考察対象とする語の類似点・相違点を明らかにする前提として、初山(2005)を取りあげる。初山(2005)の研究は類義表現を認知言語学的観点から定義・分類したものである。

次に3. では어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

最後の4. は本稿のまとめである。

2. 前提となる理論

分析に入る前に、本節では、考察対象とする語の類似点・相違点を明らかにする前提として、初山(2005)を取り上げる。

初山(2005:579-583)の研究は、類義表現の意味の異なりの諸相を、認知言語学の枠組みから明らかにしたものである。以下、その内容を概観する。

まず、類義表現(類義語・類義句・類義文を含む)をプロトタイプカテゴリー(注1)と考え、プロトタイプの類義表現を「指示対象・指示範囲(プロフィール)が同一である複数の表現(プロトタイプの類義文:真理条件的意味が同一である複数の文)」と定義し、次のような例をあげている。

例) あした／みょうにち、盲腸(炎)／虫垂炎

花子が太郎をなぐった。／太郎が花子になぐられた。

また、「この定義に基づけば、類義表現の意味の違いは、必然的に、同一の事物・事態に対して異なる捉え方・解釈(construal)をすることができるという人間が有する認知能力に還元できることになる」としている。

さらに、プロトタイプから拡張した(非プロトタイプの)類義表現を次のように定義している。

類義表現：同一の対象を示しうる(指す場合がある)複数の表現

例) 動物／犬、木／松 [上位語と下位語の関係]

門のところに誰かいる。／門の前に怪しい男が立っている。[描写の精密さの異なる文]

この花は日本語で「サクラ」と言う／呼ぶ。[一方の語(句)の複数の意味のうちの1つが、他方の語の意味(の1つ)と同一]

さて、初山(2005)は、以上の事物・事態に対する様々な捉え方(の違い)の観点から、類義表現を大きく10に分類している。以下、主なものを示す。

- ・「ベースは同一であるが、プロファイルは異なる(焦点化・前景化の違い)」
→「やっと/ようやく」、「Aしながら B/Bしながら A」
- ・「プロファイルは同一であるが、ベースは異なる」
→「land[↔sea]/ground[↔air]」、「陸上[↔海上]/地上[↔空中・地下]」
- ・「視点の違い」
→「shore[視点が水上]/coast[視点が陸上]」、「Aさんが名古屋から東京に行った。
/Aさんが名古屋から東京に来た。」

本稿で考察する어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] は、初山(2005)で分類されている類義表現のタイプの中で「ベースは同一であるが、プロファイルは異なる(前景化・焦点化の違い)」のものであると考えられる(詳しくは後述)。

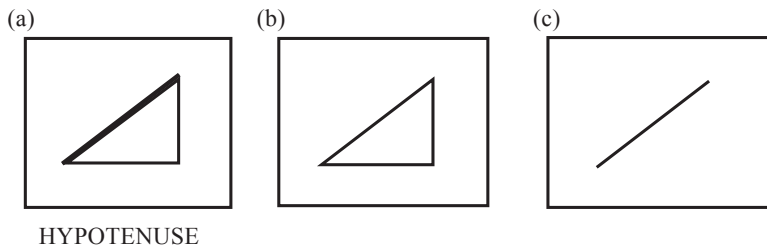
それでは、ここで本稿で用いる「ベース(base)」と「プロファイル(profile)」という用語について簡略に説明する。これらは Langaker(1987,1988)の用語で、辻(2002)は、次のように解説している。

認知文法は、百科事典的意味論の立場をとり、ことばの意味は複数の認知領域において記述される。ある特定の認知領域においても、全ての構造が等しく扱われるのではなく、焦点

韓国語の副詞的成分 어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析化され、際だちの大きいプロファイルと呼ばれる部分と、そのプロファイルの背景的要素として機能するベースに分かれる。

例えば、直角三角形の「斜辺」という表現の意味記述においては、空間という認知領域における形状が最も重要である。この領域において、想起される概念内容の全体、すなわち直角三角形の形状全体がベースとなる。というのは、「斜辺」の意味を規定する場合には、1本の直線のみを想起するだけでは不十分であり、直角三角形という3本の直線からなる形状全体が概念化されなければならないからである。しかし、「斜辺」ということばは、当然この形状全体を指し示すわけではない。言語使用者は、この形状全体を心に思い浮かべたうえで、その部分構造である斜めの直線に注目し、その部分のみに言及する場合の表現が「斜辺」である。このように、特定の言語表現が直接指し示す部分をプロファイルと呼ぶ。(p.236、下線は引用者)

<図1> Langacker(1988:59)



3. 어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析
本節では、어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

3.1. 3語の類似点（同一のベース）

上にも述べたように、以下では「ベース」と「プロファイル」の概念を用いて3語の類似点・相違点を明らかにする。

まず、3語が類義関係にあることを以下の例に基づき、確認する。

- (1) 조심스럽게 봉투를 열었다. 내용을 죽 읽어 내리는 동안 어느새 (어느덧 / 나도 모르게) 눈앞이 눈물로 흐려졌다.
(気をつけながら封筒を開けた。内容を読んでいくうちに어느새 (어느덧 / 나도 모르게) 目の前が涙でかすんだ)
- (2) 어느덧 (어느새 / 나도 모르게) 내 발걸음은 그 여자, 아니 비구니 스님에게로 다

가가고 있었다.

(어느덧 (어느새 / 나도 모르게) 私の足はあの女、いや比丘尼さんのところへ近づいていた)

- (3) 여름 향기 등 한국 드라마를 계속 보았다. 그러면서 나는 점점 한국에 가는 꿈을 꾸게 되었다. 나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 한국 사람들을 좋아하게 되었고 ... (夏の香りなど韓国ドラマを続けて見た。そのうち私は次第に韓国へ行く夢を見るようになった。 나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 韓国の人たちが好きになり...)

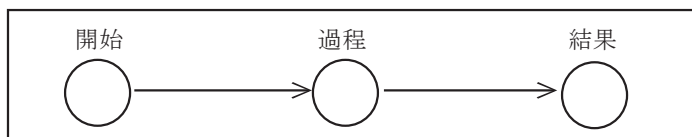
例(1)～(3)における어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の3語は、互いに置き換えても文の持つ意味はほとんど変わらない。

例(1)は「(手紙の) 内容を読んでいるうちに、自分(話し手)も気づかないうちに目の前が涙でかすんだ」というようにとらえることができる。また例(2)は「自分も気づかないうちに、比丘尼さんのところへ近づいていた」というように解釈することができる。例(3)も「韓国ドラマを続けて見ているうちに、自分も気づかないうちに、韓国の人たちが好きになった」というようにとらえられる。

以上のことから、어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の3語は「話し手がある事柄(行為や出来事、状態など)の変化に気づいていない」という共通点を持っていることがわかる。

ここで「ある事柄の変化」を<図2>のように示した場合、3語は一連の「変化に気づいていない」という共通のベースを持つことになる。

<図2> (同一のベース) <事柄の変化>



3.2. 어느새 [eoneusae] と어느덧 [eoneudeos]

本節では、어느새 [eoneusae] と어느덧 [eoneudeos] を比較し、相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

まず、어느새 [eoneusae] についての例を見てみよう。

- (4) 그리고 또 무슨 일이 있었든가? 잘 모르겠다. 어느새 나는 전철 밖에 나와 있었다. (そしてまた何があったのか。よく分からない。 어느새 私は電車の外に出ていた)

韓国語の副詞的成分 어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析

- (5) 소주병을 보니 어느새 비어 있었다. 이게 도대체 몇 병째지?
(焼酎の瓶を見たら어느새空になっていた。これでいったい何本目だろう?)
- (6) 멀리서 호루라기 소리가 들렸다. 어느새 그녀가 가드레일을 넘어 댐 아래쪽에 내려가 있었던 것이다.
(遠くから笛の音が聞こえた。어느새彼女はガードレールを超えて、ダムの下の方へ降りていたのである)

以上の例から分かるように、話し手は「電車の外に出ていた」、「焼酎の瓶が空になっていた」、「彼女がダムの下の方に降りていた」という自分のおかれた状況について、「そうなるまでのプロセスを覚えていない」と言える。例えば、例(4)の場合「私は気がついたら、電車の外に出ていた。つまり、どうやって電車の外に出てきたか覚えていない」というように読みとることができる。また、例(5)は「(例えば、飲み会で焼酎を飲んでいる状況で)気がついたら、焼酎の瓶が空になっていた。つまり、空になるまでのプロセスを全く覚えていない」というようにとらえることができる。

以上のことから、어느새 [eoneusae] の意味は<話し手が><気づかないうちに><ある出来事や状態が変化していた><ととらえる>ことを表すと記述できる。

続いて、어느덧 [eoneudeos] を取りあげる。

- (7) " 만약 저를 배신하면 그때 여지없이 죽어버리겠어요. 연우씨를 사랑하는 동안 어느덧 증오가 생겨버린 것 같아요. 연우씨가 그렇게 만들어놓은 거죠."
(「もし私を裏切ったらその時は容赦なく殺してしまいます。ヨンウさんを愛している間に어느덧憎悪が生まれてしまったみたいです。ヨンウさんがそうさせたのです」)
- (8) 또한 말을 하다 보니 어느덧 부부 사이의 문제가 되고 말았다.
(また話しているうちに어느덧夫婦の間の問題になってしまった)
- (9) 긴 머리를 휘날리는 짝꿍이 있었는데 늘 예쁘게 입고 온 빨강 치마가 어느덧 마음에 들어 온 것 같아요.
(長い髪をなびかす仲良しの子がいて、いつもきれいに着てきた赤いスカートが、어느덧心の中に入って来たのだと思う)
- (10) " 하지만 타인에 대해선 웬지 조금도 친절하지가 않아. 그 같은 냉정을 두고두고 견뎌낼 수 있겠어?" 내 장래까지 걱정해주는 것은 고마운 일이었으나 어느덧 나는 그런 말이 귀에 들리지 않았다.
(「だけど他人に対してはなぜかちっとも親切じゃないよ. そんな冷たさにずっと耐えられるかな」私の将来まで心配してくれるのはありがたいことだったが、어느덧私はそんな言葉が耳に入らなくなった)

以上の例において、「憎悪が生まれた」、「夫婦の間の問題になった」、「心の中に入って来た」、「そんな言葉が耳に入らなくなった」という事柄は、話し手によって「それがいつからそうなったか分からない」というようにとらえられていると考えられる。また、その事柄は「ある程度時間が経過するとともにそうなった」ということになる。

例えば、例(7)は、「ヨンウさんを愛している間に、(ヨンウさんに対する)憎悪が生まれてきたが、それがいつからそのように思えてきたか分からない」というようにとらえることができる。

また、例(8)の場合は、「(文脈には出ていないが)問題となっている話題について話しているうちに、それが夫婦の間の問題にまで発展してしまったが、それがいつからそうなったか聞かれても答えられない」ということになる。

以上のことから、어느덧 [eoneudeos] の意味は<話し手が><ある出来事や状態の><変化のはじまりに気づいていない><ととらえる>ことを表すと記述できる。

それではここで、어느새 [eoneusae] と어느덧 [eoneudeos] の意味の相違点(プロフィールの違い)について検討する。

以下の例において、어느새 [eoneusae] を어느덧 [eoneudeos] で言い換えてみると、この文脈では非文か不自然な文になる。

- (11) 어느 초등학교에서 대청소를 하고 벽을 깨끗이 다시 칠했다. 그런데 어느새(*어느덧) 새로 깨끗이 칠한 벽에다 누군가가 낙서를 했다.
(ある小学校で大掃除をして壁をきれいに塗りなおした。ところが어느새(*어느덧)新しく塗った壁に誰かが落書きをした)
- (12) 어제 우유를 세통이나 샀는데, 아침에 냉장고를 열어보니 어느새(??어느덧) 다 마시고 없었다.
(昨日牛乳を三本も買ったのに、今朝冷蔵庫を開けてみたら어느새(??어느덧)全部飲んで無くなっていた)

上でも説明したように、어느덧 [eoneudeos] の意味は<話し手が><ある出来事や状態の><変化のはじまりに気づいていない><ととらえる>ことを表す場合に用いられる。従って、話し手自身は当該の出来事や状態の変化が起こっている状況におかれていなければならないと考えられる。つまり、当該の出来事や状態の変化が起こっている状況におかれているからこそ、「変化のはじまり(開始)」に注目できるのである。

ところが、上の例は、話し手がある時点において「落書きがされている、牛乳が全部無くなっている」という事実をはじめて知ったことを述べている。つまり、(文の状況から分かるように)話し手が当該の出来事や状態の変化が起こっている状況におかれるということが考えられない。例えば、例(11)において、어느덧 [eoneudeos] を用いると、「大掃除をして壁を塗りな

韓国語の副詞的成分 어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析

おし、その場にいるうちに、いつからか分からないが誰かが落書きをした」というようになってしまふ。その場にいながら、落書きされるのに気づかないのは通常考えられないことである。そのため、어느덧 [eoneudeos] を用いると非文になる。

また、例 (12) の場合も 어느덧 [eoneudeos] を用いるためには、当該の出来事や状態の変化が起こっている状況におかれていなければならない。しかし、この文脈からはそのような状況が想定しにくいと考えられる。つまり、例 (12) は「昨日買っておいた牛乳を今朝はじめて確認した」ということを述べており、「台所に行って冷蔵庫を開けてみたりしているうちに、いつからか分からないが牛乳が全部無くなっていた」というような解釈は難しいということである。なお、以上の例において、어느새 [eoneusae] が問題なく用いられるのは、「変化の結果」に注目しているからである。

今度は逆に 어느덧 [eoneudeos] を 어느새 [eoneusae] に置き換えると非文（あるいは、不自然な文）になるケースを見てみよう。

(13) 긴 머리를 휘날리는 짝꿍이 있었는데 늘 예쁘게 입고 온 빨강 치마가 어느덧 (?? 어느새) 마음에 들어 온 것 같아요.

(長い髪をなびかす仲良しの子がいて、いつもきれいに着てきた赤いスカートが、어느덧 (?? 어느새) 心の中に入って来たのだと思う) (例 (9) の再掲)

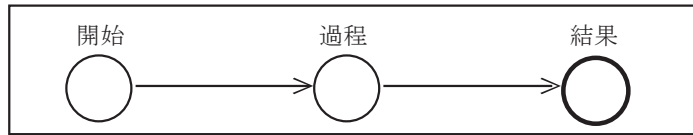
(14) " 하지만 타인에 대해선 웬지 조금도 친절하지가 않아. 그 같은 냉정을 두고두고 견뎌낼 수 있겠어?" 내 장래까지 걱정해주는 것은 고마운 일이었으나 어느덧 (* 어느새) 나는 그런 말이 귀에 들리지 않았다.

(「だけど他人に対してはなぜかちっとも親切じゃないよ。そんな冷たさにずっと耐えられるかな」私の将来まで心配してくれるのはありがたいことだったが、어느덧 (* 어느새) 私はそんな言葉が耳に入らなくなった) (例 (10) の再掲)

これらの例は、「当該の出来事や状態の変化に対して、いつからそうなったか分からない」という「変化のはじまり（開始）に注目している」というようにとらえられ、어느덧 [eoneudeos] が用いられている。上でも述べたように、例 (13) は「彼女と接しているうちに、彼女の赤いスカート（の姿）が心の中に入って来たが、それがいつからそうなったか分からない」というように、「変化のはじまり（開始）」に注目しているととらえられる。この場合、어느새 [eoneusae] が用いられない（あるいは、不自然な文になる）のは、「変化の結果」に注目するという状況が想定しにくいからである。

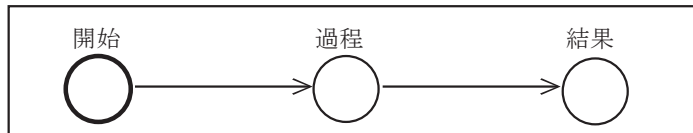
以上のことを図で示すと次のようにまとめられる。

<図3> -어느새 [eoneusae] <事柄の変化>



→ 「変化の結果 (プロフィール)」に注目して述べる場合に用いられる。

<図4> -어느덧 [eoneudeos] <事柄の変化>



→ 「変化のはじまり (プロフィール)」に注目して述べる場合に用いられる。

ここで、어느새 [eoneusae] と 어느덧 [eoneudeos] が両方用いられる例を見てみよう。

(15) 지혜는 나를 늘 따뜻하게 대해 주었다. 나도 그런 지혜가 좋았고, 어느새 (어느
덧) 우리는 절친한 사이가 되었다.

(智恵さんは私をいつも温かく接してくれた。私もそんな智恵さんが好きで、어느새 (어느
덧) 私たちはとても仲の良い関係になった)

上の例において、어느새 [eoneusae] と 어느덧 [eoneudeos] のどちらを用いても文の持つ意味はほとんど変わらない。

ただし、어느새 [eoneusae] を用いた場合は、「(ある日) 私たち二人のことを考えていて、その時はじめて、とても仲良くなっていたことに気づいた」というように解釈することができる。つまり、「事柄の変化 (ベース)」の中で、「結果」の部分がプロフィールされる。

それに対して、어느덧 [eoneudeos] を用いた場合は、「お互い接しているうちに、いつからか分からないが、私たちはとても仲良くなっていた」というようにとらえることができる。つまり、「事柄の変化 (ベース)」の中で、「開始」の部分がプロフィールされる。

3.3. 나도 모르게 [nado moreuge] と 어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]

3.3.1. 나도 모르게 [nado moreuge] の意味

以下に述べるように、나도 모르게 [nado moreuge] には2つの意味が認められる。それぞれ順番に見ていく (注2)。

3.3.1.1. 意味①

- (16) 사진을 보고 나도 모르게 소리를 질렀다. 징그럽다. 에일리언을 연상케 한다.
(写真を見て 나도 모르게 叫んだ。気味が悪い。エイリアンを連想させる)
- (17) 과자나 떡을 보면 나도 모르게 손이 갔다.
(お菓子やお餅を見ると 나도 모르게 手が行った)
- (18) 대기자 중에 몇 명이나 더 탈 수 있느냐는 물음에 항공사 직원이 다 탈 수 있다는 말에 나도 모르게 환호성을 질렀다.
(待機者の中から、あと何人乗れるかという質問に、航空会社の職員が全員乗れるという言葉に 나도 모르게 歓声を上げた)
- (19) 쇼핑을 하다 보면 꼭 필요해서가 아니라 나도 모르게 물건을 사게 되는 경우가 있죠? 말 그대로 '충동구매' 라고 생각하지만 ...
(쇼핑을 하고 있는데、必ず必要じゃなくても 나도 모르게 物を買ってしまうケースがありますね? 言葉通り「衝動買い」だと思われませんが...)

例(16)～(19)から分かるように、「叫ぶ」、「手が行く」、「歓声を上げる」、「物を買う」という行為は、何らかの「刺激」によって行われるものとしてとらえられる。また、それはほとんど意識せずに行う「非意図的な行為」としてとらえられる。例えば、例(16)は「写真に写っている物体を見る」という刺激によって、「叫ぶ」という非意図的な行為をしたことを表している。また、例(17)は「お菓子やお餅を見る」という刺激によって、「手が行く」という非意図的な行為をしたということになる。

以上のことから、나도 모르게 [nado moreuge] の意味①は<話し手が><ある刺激が原因で><非意図的な行為をする><とらえる>ことを表すと記述することができる。なお、この場合の나도 모르게 [nado moreuge] は、「身体活動や生理活動、発話活動」などと共起する場合が多い。

通常の場合、人間が「身ぶるいをする、目を見張る、叫ぶ、嘆声を漏らす、体を固くする」などの行為をするのは、外界から受ける「感動、興奮、恐怖」などの影響による場合が多いと考えられる。また、「感動、興奮、恐怖」などは「ある刺激」から受けるのが一般的であると言えよう。以上のことから、나도 모르게 [nado moreuge] は「身体活動や生理活動、発話活動」などと共起する場合が多いと考えられる。

3.3.1.2. 意味②

나도 모르게 [nado moreuge] には今記述した意味①と異なる意味に用いられることがある。例えば、次の例では<ある刺激が原因で>といったものが想定できない(あるいは想定しにくい)。

- (20) 길거리에서 담배를 피우는 사람들이 너무 많아 걷다보면 나도 모르게 담배 연기를 그대로 마시고 있다.
(道でたばこを吸う人が多すぎて、歩いていると나도 모르게たばこの煙をそのまま吸っている)
- (21) 재미있게 즐기다 보니 나도 모르게 영어 실력이 늘었다.
(楽しんでいうちに나도 모르게英語の実力が伸びた)
- (22) 나도 예전에는 하고 싶은 것이 많았고 테니스나 골프도 열심히 치러 다녔다. 하지만 쉰다섯을 지나며 나도 모르게 일하는 것이 차츰 취미가 되어버렸다.
(私も以前はやりたいことが多くて、テニスやゴルフも頑張ってやっていた。しかし、55歳を過ぎてから나도 모르게仕事がだんだん趣味になってしまった)

以上の例は、いずれも、話し手に時間の経過を伴った何らかの「変化」が生じていると言える。また、話し手はその「変化」に気づいていないと言える。

例えば、例(20)は「道を歩いているうちに、自分も気づかないまま、たばこの煙を吸っている」というようにとらえることができる。

また、例(21)の場合は「(英語の勉強を)楽しんでいううちに、自分も気づかないまま、英語が上達していた」というように解釈できる。さらに、例(22)の場合は「55歳を過ぎてから、自分も気づかないまま、仕事だんだん趣味になってしまった」というように読みとることができる。

以上のことから、나도 모르게 [nado moreuge] の意味②は<話し手が><ある行為(あるいは、おかれた状況)から><気づかないまま><別の行為に移る(あるいは、別の状況におかれる)><ととらえる>ことを表すと記述できる(注3)。

3.3.2. 나도 모르게 [nado moreuge] と 어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]

この節では、나도 모르게 [nado moreuge] と 어느덧 [eoneudeos]、어느새 [eoneusae] を取りあげ、3語の意味の類似点・相違点について考察する。

まず、나도 모르게 [nado moreuge] が意味①として用いられる場合を見てみよう。

- (23) 승리가 확정됐을 때 너무 기뻐서 나도 모르게 (*어느새 /*어느덧) 웃음이 나왔다.
(勝리가確定した時、あまりの嬉しさに나도 모르게 (*어느새 /*어느덧) 笑いが出た)
- (24) 어제, 오늘은 후덥지근해서 조금만 걸어도 땀으로 옷이 다 젖어버리네요. 그래서 집에 돌아오면 나도 모르게 (*어느새 /*어느덧) 냉장고 문을 제일 먼저 열게 됩니다.
(昨日、今日は蒸し暑くて少し歩いてだけで汗で服が全部濡れてしまいます。それで

韓国語の副詞的成分 어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析

家に帰ると 나도 모르게 (*어느새 / *어느덧) 冷蔵庫のドアを最初に開けるようになります)

以上の例は、「ある刺激によって、非意図的な行為をする」というようにとらえられ、나도 모르게 [nado moreuge] が用いられている。このように、나도 모르게 [nado moreuge] が意味①として用いられる場合は、어느덧 [eoneudeos] と 어느새 [eoneusae] で言い換えられない。

続いて、나도 모르게 [nado moreuge] が意味②として用いられる場合を見てみよう

(25) 여름 향기 등 한국 드라마를 계속 보았다. 그러면서 나는 점점 한국에 가는 꿈을 꾸게 되었다. 나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 한국 사람들을 좋아하게 되었고 ...

(夏の香りなど韓国ドラマを続けて見た。そのうち私は次第に韓国へ行く夢を見るようになった。나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 韓国の人たちが好きになり...) (例(3)の再掲)

(26) 자연스럽게 친구들과 어울리면서 나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 정이 들었어요. 지금도 사이 좋게 잘 만나고 있습니다.

(自然と友達と付き合うようになり 나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 仲良くなりました。今も仲良く付き合っています)

以上の例における 나도 모르게 [nado moreuge] は、어느새 [eoneusae] また는 어느덧 [eoneudeos] に置き換えても文の持つ意味はほとんど変わらない。上でも述べたように、例(25)は「韓国ドラマを続けて見ているうちに、自分も気づかぬうちに、韓国の人たちが好きになった」というように解釈することができる。

以上のことから、어느새 [eoneusae] と 어느덧 [eoneudeos] は、나도 모르게 [nado moreuge] が意味②として用いられる場合に類義関係にあることが分かる。

しかし、以下の例のように互いに置き換えてみると不自然な文になる場合もあるため、この3語は違う意味の側面も持っていると考えられる。

(27) 현재 90kg 이다. 파워에서는 여전히 문제 없지만, 스피드가 계속 줄어든다. 체력은 시간이 가면서 나도 모르게 (*어느새 / ??어느덧) 떨어지는 것이기 때문에 ...

(現在 90kg だ。パワーの面ではまだ全然問題ないが、スピードがどんどん落ちている。体力は時間が経つにつれ 나도 모르게 (*어느새 / ??어느덧) 落ちるものだから ...)

(28) 나쁜 습관은 생활 속에서 나도 모르게 (*어느새 / ??어느덧) 생기는 경우가 많지만, 좋은 습관은 몸에 배도록 노력을 해야 한다.

(悪い習慣は生活の中で 나도 모르게 (*어느새 / ??어느덧) 出てくるケースが多いが、良い習慣は身につけるよう努力しなければならない)

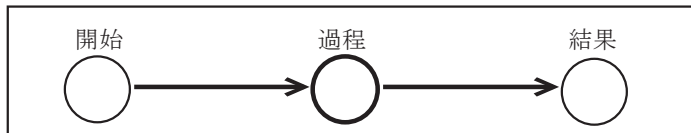
以上の例において、나도 모르게 [nado moreuge] を어느새 [eoneusae] また는어느덧 [eoneudeos] で言い換えられないのは、나도 모르게 [nado moreuge] は「話し手が気づかないうちに、自分の行う行為(ある状況)が、別の行為に移る(別の状況におかれる)」という「変化のプロセス」に注目しているのに対して、어느새 [eoneusae] と어느덧 [eoneudeos] は「変化のプロセス」ではなく、それぞれ「気づいたらそうになっていた」という「変化の結果」、「いつからそうなったか分からない」という「変化のはじまり(開始)」に注目しているからであると考えられる。つまり、例(27)、(28)の場合、어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos] が用いられないのは、話し手は「体力が落ちる」、「悪い習慣が出る」という変化の結果、あるいは変化のはじまり(開始)に注目しているのではなく、気がつかないまま(時間とともに)「体力が落ちていく」、「悪い習慣が出てくる」という変化のプロセスに注目して述べていると考えられるからである。

一方、어느새 [eoneusae] と어느덧 [eoneudeos] は以下の例のように、話し手のかかわらない客観的な事柄を表す場合に用いることができる。나도 모르게 [nado moreuge] はこのような文には用いられない(注4)。

- (29) 어느덧(*나도 모르게) 하루가 저물어 간다.
 (어느덧(*나도 모르게) 一日が暮れていく)
- (30) 그 아이는 어느새(*나도 모르게) 그 개를 쫓고 있었다.
 (その子は어느새(*나도 모르게) その犬を追いかけていた)

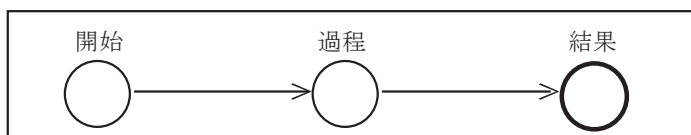
以上、나도 모르게 [nado moreuge]、어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos] の相違点について見てきたが、このことを図で示すと次のようにまとめられる。

< 図 5 > -나도 모르게 [nado moreuge] 意味② < 事柄の変化 >



→ 「変化の過程(プロフィール)」に注目して述べる場合に用いられる。

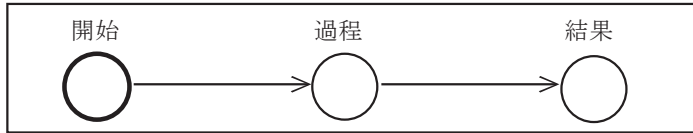
< 図 6(=3) > -어느새 [eoneusae] < 事柄の変化 >



韓国語の副詞的成分어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] の意味分析

→ 「変化の結果（プロフィール）」に注目して述べる場合に用いられる。

< 図 7(=4) > -어느덧 [eoneudeos] < 事柄の変化 >



→ 「変化のはじまり（プロフィール）」に注目して述べる場合に用いられる。

ここで、나도 모르게 [nado moreuge]、어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos] のいずれも用いられる例を見てみよう。

- (31) 자연스럽게 친구들과 어울리면서 나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 정이 들었어요.
지금도 사이 좋게 잘 만나고 있답니다.
(自然と友達と付き合いようになり 나도 모르게 (어느새 / 어느덧) 仲良くなりました。
今も仲良く付き合っています) (例 (26) の再掲)

上の例は、나도 모르게 [nado moreuge]、어느덧 [eoneudeos]、어느새 [eoneusae] のいずれも用いられ、意味の差もほとんどないが、ニュアンスの違いとして、나도 모르게 [nado moreuge] を用いた場合は「友達と付き合いっていて、自分も気づかぬうちに、だんだん仲良くなっていった」というように読みとることができる。つまり、変化の過程（プロセス）がプロフィールされる。

それに対して、어느덧 [eoneudeos] を用いた場合は「友達と付き合いっていて、いつからか分からないが、仲良くなっていった」というように、変化のはじまり（開始）がプロフィールされる。

一方、어느새 [eoneusae] を用いた場合は「友達と付き合いっていて、気がついたら、仲良くなっていった」というように、変化の結果がプロフィールされる。

4. まとめ

以上、本稿では、어느새 [eoneusae]、어느덧 [eoneudeos]、나도 모르게 [nado moreuge] を取りあげ、認知言語学の枠組みから相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。以下、分析結果を簡単にまとめておく。

まず、各語の個別の意味の分析結果をまとめると次のようになる。

어느새 [eoneusae]

<話し手が><気づかないうちに><ある出来事や状態が変化していた><ととらえる>

어느덧 [eoneudeos]

<話し手が><ある出来事や状態の><変化のはじまりに気づいていない><ととらえる>

나도 모르게 [nado moreuge]

意味①

<話し手が><ある刺激が原因で><非意図的な行為をする><ととらえる>

意味②

<話し手が><ある行為（あるいは、おかれた状況）から><気づかないまま><別の行為に移る（あるいは、別の状況におかれる）><ととらえる>

次に、各語の相互の意味の類似点・相違点については、以下のようにまとめられる。

「類似点（同一のベース）」

<話し手がある事柄（行為や出来事、状態など）の変化に気づいていない>

「相違点（プロファイルの違い）」

어느새 [eoneusae] → 「変化の結果」に注目して述べる場合に用いられる。

어느덧 [eoneudeos] → 「変化のはじまり（開始）」に注目して述べる場合に用いられる。

나도 모르게 [nado moreuge] 意味② → 「変化の過程（プロセス）」に注目して述べる場合に用いられる。

なお、ここで言う「プロファイルの違い」というのは、相対的な程度の差によるものとして考えられる。つまり、プロファイルされない部分にはまったく注目しないということではない（注5）。

注

注1 河上(1996)は「カテゴリー化」について次のように述べている。

私たちは日常生活において、様々な事物を知覚し、経験する。その量は膨大なものであり、一つ一つを記憶にとどめようとする大変なことになる。しかし、私たちはそれらの事物を効率的にグループ分けすることができる。つまり私たちには、事物から何らかの類似性や一般性を抽出することで、事物間にあるまとまりを認識し分類することができる能力が備わっていると考えられる。このような事物をグループにまとめる認識上

のプロセスを、一般的にカテゴリー化という。(河上(1996:27))

また、言語の様々な側面に関するカテゴリー化の問題について、プロトタイプ論的見方を採用したことを認知言語学の根幹をなす特徴の一つとしてあげている。

さらに、プロトタイプを「カテゴリーの成員の中でもより中心的で、そのカテゴリーを代表すると思われるもの(河上(1996:209))」と定義した上で、次のように述べている。

そして私たちが事物をカテゴリー化する場合、そのプロトタイプを核とし、その周りにさまざまな成員を位置づけることで、全体を構造化しているとみなす。この考えに基づけば、カテゴリーの成員は、その成員らしさという点では一様ではなく、中にはプロトタイプに近いものもあれば、それとはかけ離れた周辺的なものがあったり、成員間で段階性がみられることになる。(河上(1996:32))

注2 以下のような例に現れる나도 모르게 [nado moreuge] は、副詞的成分としては考えにくい。その根拠として、나도 [nado] と 모르게 [moreuge] の間に 전혀 [jeonhyeo] (≒全然) のような副詞を挿入しても問題なく文が成立する。本稿では、このような例は考察対象外とする。

- ① a 나도 모르게 은행계좌에서 돈이 빠져나갔다.
(나도 모르게 銀行口座からお金が引き落とされた)
- b 나도 전혀 모르게 은행계좌에서 돈이 빠져나갔다.
(나도 전혀 모르게 銀行口座からお金が引き落とされた)
- ② a 나도 모르게 찍힌 사진이 신문에 나왔다.
(나도 모르게 撮られた写真が新聞に出た)
- b 나도 전혀 모르게 찍힌 사진이 신문에 나왔다.
(나도 전혀 모르게 撮られた写真が新聞に出た)

注3 下の例のように意味①とも意味②とも解釈できる場合があり、どちらの意味になるのか判断が難しいケースもある。

- ③ “나 역시 군대를 가기 전까지 군대 이야기를 싫어했는데, 막상 다녀오니 나도 모르게 군대 이야기를 하고 있더라” 고 말해 ...
(「私もまた軍隊(徴兵)に行く前は軍隊の話が嫌いだったが、いざ行ってくると 나도 모르게 軍隊の話をしてた」と言って ...)

このように意味①と意味②必ずしも明確には区別されるわけではなく、切れ目なく連続しているということを指摘しておく。なお、2つの意味の関連性については今後

の課題としたい。

注4 ただし、나도 모르게 [nado moreuge] が「注2」のように用いられる場合は、自然な文となる。

注5 初山(2005:582)は「やっ」と「ようやく」の分析の中で、「ベースの中でプロファイルされない部分は、完全に背景化されているというよりもプロファイルされた部分より相対的に際だちが低いと考えるべきであろう」と述べている。

参考文献

- 李澤熊(2001)「副詞(的機能を持つ表現)の意味分析—思わず、無意識に、我知らず、知らず知らず、いつの間にか、いつしか—」、『日本語教育論集 世界の日本語教育』第11号, 国際交流基金, pp. 179-193.
- 河上誓作(1996)『認知言語学の基礎』, 研究社出版.
- 朱信源(編)(2005)『標準韓国語辞典』, 白帝社.
- 辻幸夫(2002)『認知言語学 キーワード事典』, 研究社.
- 飛田良文・浅田秀子(1994)『現代副詞用法辞典』, 東京堂出版.
- 松村明(編)(1995)『大辞林』, 三省堂.
- 民衆書林編集局(編)(1998)『日韓・韓日辞典』, 民衆書林.
- 初山洋介(2005)「類義表現の体系的分類」, 『日本認知言語学会論文集』第5巻, 日本認知言語学会, pp.579-583.
- 安田吉実・箕輪吉次・孫洛範・李淑子(編)(2006)『韓日辞典』, 民衆書林.
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar Vol.1*, Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, R. W. (1988) "A View of Linguistic Semantics." In Brygida Rudzka-Ostyn, ed., *Topics in Cognitive Linguistics*. pp.49-90. Amsterdam: John Benjamins.

例文出典

- (1) 検索エンジン 다음 넷 (<http://www.daum.net/>)
- (2) 検索エンジン google (<http://www.google.co.jp/>)
- (3) 21 세기 세종계획 (<http://sejong.or.kr/>)